

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社ナックス		
事業所名	グループホームぬくもりの家揖斐		
所在地	揖斐郡揖斐川町島291-1 (電話) 0585-22-6335		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年3月10日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

揖斐山脈、田園地帯、近くに堤防があり、四季折々の野花在咲き自然環境に恵まれた住宅地に、小高く森に囲まれた木造の現代的に建設されたホームは、近くを通れば誰もが一度は訪問したいと思う雰囲気がある。建物の周りには広く散歩できる庭があり、農園が設営され、近所の人に手伝ってもらい、利用者と共に野菜や花づくりを楽しんでいる。散歩しながら野菜の成長を目で確かめ、手で触れ、収穫した食材が互いの話題となり、次の野菜づくりへと夢がふくらみ、苗から育てた花を自分の部屋に飾ったりしている。栄養士・看護師・整体師等専門職種の正規職員が配置され、安心と信頼がある。管理者の考えから、子育て中の職員も困ったときはいつでも子どもを連れて来れるなど、働きやすい職場である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	開設1年未満で今回が初の評価である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回は初めての評価であり職員も経験の短いことから、職員全員での自己評価になっていない部分もあったが、評価制度を前向きにとらえ、項目を見直し、利用者のサービス向上に生かそうとする姿勢がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	区長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政代表、家族代表などが出席し、隔月に開催され、詳細な議事録も作られている。運営推進会議をきっかけに区長から公民館祭への参加の誘いもある。ホームを地域に理解してもらえるよう介護保険の相談窓口も設置している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	玄関に第三者苦情相談員名が掲示され、意見箱も置かれている。ホームへの支払いは家族が訪問し、直接手渡しすることを原則としており、その機会を大切にして、利用者の生活・身体・金銭の報告を行う他、家族の意見要望も聞くように努めている。個人別の日々記録を訪問時に目を通してもらうこともある。改善出来ることは直ちに実施することが、ホーム運営の基本である。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	管理者夫妻は地域で育ち、開設に至るまでも様々な関係の連携があり、利用者も馴染みがある。公民館行事などへ参加し、ホーム行事にも地域の参加を得ている。また、ホームの畑を地域の人に世話をしてもらう等、自然なつながりがあり、介護保険の相談なども受けている。日頃の付き合いも大切にしており、ホームで必要な日常の買い物もできる限り地域で買いそろえてい

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 25 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 人, 常勤換算	11 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		650 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 25 日 現在)

利用者人数	15 名	男性	9 名	女性	6 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	3 名			
要介護5	3 名	要支援2	名			
年齢	平均	82 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおのクリニック、増田歯科医院
---------	-----------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「『ぬくもりの家』に入居された方はなにかの縁があつて同じ家に住むことになりました。ご縁を大切に助け合い協力しながら毎日がねなく楽しく生活していただけるよう努めます。」という、解りやすい理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を大切にし、自分や自分の家族だったらこんな時どうするか、どう思うかと考え、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館行事などへ出かけたり、ホームの行事にも地域、職員・利用者の家族や親戚知人にも参加を呼びかけている。また、ホームの畑を地域の人が自由に入出入りし世話をする等、自然なつながりがあり、介護保険の相談なども受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を前向きにとらえ、利用者サービスの向上に活かそうとする意気込みがうかがえる。	○	次回は、自己評価を職員全員で取り組み、ケアの振り返りの機会とされたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は家族代表、地域包括センター職員、行政代表、区長、民生委員などが出席して隔月に開催されている。気軽に依頼できる関係もあり、地域の行事の情報もその都度教えてもらっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から指導を受けたり、判断に困ったときは連絡を取り、相談したりして連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームへの支払いが家族が訪問し、直接手渡しすることを原則とし、その機会に、利用者の生活・身体・金銭の報告を行い、個人別の日々の記録に目を通してもらうこともある。3ヶ月に1回程度、通信を発送し、状態に変化があれば、家族に詳細な連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に第三者苦情相談員名が掲示され、意見箱も置かれている。利用者、家族の要望は日常直接聞くように心がけている。改善出来ることは、直ちに実施することがホーム運営の基本である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	良い介護は良い職員があつてこそという管理者の考えから、職員や職員の家族も大切に、働きやすい環境作りがされており、離職者がいない。職員の休憩時間、休息場所も確保されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングや職員会議において、気づき、研修報告、経験など話し合い、泊まりの出来ない職員等には、申し送りノートなどで夜間帯の状態を報告し、利用者の生活全般を職員全員が把握している。また、経験のある職員が後輩を育てる関係が出来ている。	○	開設1年を過ぎ、職員と利用者の関係が落ち着いてきたら、段階に応じ外部における各種講習、研修の機会をも確保し、更なる研鑽を積まれることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの管理者、介護支援専門員が3ヶ月に1回集まり、意見交換や研修会を開き、地域全体の福祉の質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族で訪問してもらい、納得出来るまで、時間をかけて検討するよう働きかけている。また、アセスメントを詳細に行い、雰囲気馴染むよう利用者に向けた気配り、目配りを行っている。部屋に余裕があれば、体験入居も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の名産である干し柿づくりや料理等、利用者から教えてもらいながら受け継いでいる。また、野菜作りは全員の協力で行い、豊作になれば共に喜び、食材として利用している。同じ目標を持つことにより、日々の話題がはずみ、目で確かめることにより、喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの性格や習慣をアセスメントや日々の様子・会話から職員全員が把握し、本人に適した支援をしている。担当職員を中心に利用者の気持ちを把握し、朝のミーティングや全体会議に報告し、共有して介護につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で利用者についての気づきや個別ノートなどを参考に話し合い、本人、家族の希望等も取り入れて介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の評価をし、必要があれば、本人・家族等の意見を聞きながら計画の変更を行っている。体調に変化がある場合は、まず、かかりつけ医、家族に連絡を取っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	整体師でもある職員がリハビリ指導をしたり、美容師の職員が髪をカットする等ホーム内で支援している。また、看護師による日々の健康管理も実施されている。買い物等外出の希望にも個別に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の大半はホームの協力医をかかりつけ医としており、月に2回の往診日を設けている。歯科は器材の関係で通院しているが、ホーム職員が同行しており、費用は無料である。受診の経過については、家族に報告している。	○	今後、通院回数が多くなる利用者が増えることも想定し、職員の負担等も考慮の上、通院介助に基準を設ける等の工夫も話し合いたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約の際、重度化や終末期に向けての家族との話し合いを十分に行っている。病状の悪化が予測される場合は、家族と連携を密にし、対応を話し合っている。終末期や重度化に向けての書類を作成し、説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録は大切に保管されている。各部屋は個人の時間を大切にしよう居室ドアは閉めており、居室内の様子が確認できる小窓が作られている。利用者に対する尊厳は、職員の「教えていただける」という言葉から受け止めることができる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が集団で過ごす時間より個人の生活をまず優先する配慮があり、本人の生活ペースにあった過ごし方をホーム全体で支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理や洗い物にも参加できる広いキッチンがあり、できることをやってもらっている。部屋食を好む利用者の場合にもできる限り対応している。また、利用者の能力に合わせ、握り飯にしたり、おかずを持ちやすい大きさにする等、自分で食べられる喜びを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴であり、曜日は決めてあるが、希望に応じ他の日にも対応している。長湯の好きな利用者が多く、職員は気長に見守り、支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームで飼っている愛犬の散歩や、庭の草引き、畑の手入れ等、それぞれ楽しんでいる。部屋でパソコンを楽しむ人もある。また、職員が子どもを連れてホームに勤務することもあり、利用者の楽しい時間にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添った外出に同行し、美容院への送迎も行い、買い物にも同行している。近所に外出する利用者は二人ででかけたりもしている。日頃から近所の人にも協力の依頼をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の部屋は全開の開き戸であり昼間は鍵をかけていない。ベランダは木製の多少高い囲いがあり、窓を開ければ開放的である。玄関は鍵をかけず、広い庭への出入りが自由である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防訓練が実施されている。運営推進会議においても災害時に地域の協力を依頼している。表も裏も開放的に設計されており、緊急時も移動しやすい。スプリンクラーの設置については検討中である。	○	ホームは2階建てで、エレベーターもないことから、利用者が重度化になった場合の災害時の対応手順等、話し合われることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の栄養士がカロリー計算を行い、毎日の必要な栄養を確保している。バイタルチェックや排便排尿、3食の摂取量の記録管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で木の香りがするホームの中に、囲炉裏や古い嫁入りダンス、竹籠等がセンスよく配置され、昔を懐かしむことが出来る雰囲気づくりがされている。また、利用者が苗から育てた花を共用の空間や個人の部屋に飾り、季節感を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ごとに違うベッド、タンスは、ホームのものであるが、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、それぞれが落ちつける居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。